

エントリー学校名：京都府綴喜郡井手町立多賀小学校

活動名：

まちづくりの主人公の育成
 ～地域とつながる力をつける～

解決すべき課題：

人口の減少、少子高齢化が進む井手町において「まちづくり教育」に取り組んで 10 年になる。小学校・中学校の 9 年間を通して、子どもたちに地域の歴史や自然からの学びを基礎とし、郷土を愛するところを育てる取組を続けてきた。しかしここ数年は、取組がマンネリ化し受け身で学習する子どもが多く、主体的に町に貢献するという意欲が弱くなってきているように思われる。子どもに「住民としての誇りと自覚」を持たせるため、子ども自らが町に貢献するためのアイデアを出し、その実現を通して喜びを感じさせ、未来のまちづくりの主人公を育てるための実践を進める。

目標・方針：

- ・子どものアイデアを実現させる「未来のまちづくり教育」を創造する。
- ・子どもが町に貢献することを通し「住民としての誇りと自覚」を持つことができる。
- ・学校と保護者と地域住民がまちづくり教育の目標を共有し取組を進める。
- ・子どもから保護者・地域への積極的な情報の発信をする。

活動内容：

- ・ちまきをつくろう！（写真 1）京都に昔から伝わるちまきづくりを習う。（井手小 1・6 年）
- ・お米をそだてよう！（写真 2）田植え・稲刈り・収穫祭（新米を食べる）をする。（井手小・多賀小 5 年）
- ・グラウンドゴルフ交流（写真 3）グラウンドゴルフを通してお年寄りと交流する。（泉ヶ丘中 1 年）
- ・源氏ポータル出前授業（写真 4）源氏ポータルを守る会会長にポータルについて教えてもらう。（多賀小 3 年）
- ・玉川の掃除をしよう！（写真 5）井手町さくら祭りに向けて玉川の掃除をする。（泉ヶ丘中 1 年）
- ・井手町リーフレットづくり（写真 6）井手町の紹介リーフレットをつくる。（井手小・多賀小 6 年）

活動の成果：

- ・子どもたちが町に貢献するためのアイデアを出し、新しい活動ができるようになった。
- ・地域住民に教えてもらう・してもらう活動から、子どもたちが自分たちに何ができるかを考えるようになった。
- ・学校応援隊が組織され、地域の幹事と連携しながら活動を進めることができるようになった。
- ・各校の実践をまちづくり教育推進プラン(図 1)としてリーフレットにまとめることができた。
- ・まちづくり教育の実践を通して、小中連携が緊密になった。

アピールポイント（アイデアや工夫）：

- ・学校が地域社会の中核としての役割を果たし、地域の人々と目標を共有し、地域一体となった実践を展開する。
- ・子どもたち自らが町に貢献するためのアイデアを出し、その実現を通して喜びを感じるようにする。
- ・小学校・中学校の 9 年間を通して、子どもが段階的に地域とつながる力を育成する。

まちづくりの主人公の育成
 (図 1 まちづくり教育推進プランより)

1 まちの自然・歴史・人材など 地域の教育力を活かした取組

ちまきをつくろう！（写真 1）

お米を育てよう！（写真 2）

グラウンドゴルフ交流（写真 3）

2 まちの魅力を見つけ愛着心を育てる取組

源氏ポータル出前授業（写真 4）

玉川の清掃をしよう！（写真 5）

井手町リーフレットづくり（写真 6）